動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91.11.1　No. 3486

——11月5日召集・会期36日間——

PKO 臨時国会 弾劾

カンボジア出兵＝改憲・徴兵への道

PKO派兵 法案 つぶせ

海部政権は、夏の臨時国会でPKO法案、小選挙区制法案の強行成立に全力を傾けた。

しかし、両法案とも成立できず小選挙区制は廃案となった。

これを実現した闘い＝要因こそ「反戦共同行動委」を軸に夏の暑い中、連続的に東京行動、街頭行動をたたかい、この闘いが婦人民主クラブ全国協や各市民グループの行動へとつながり両法案の恐るべき内容を暴露してきたことにある。

そして、なによりも東南アジア・アジア民衆の派兵＝侵略開始への激しい反対と抗議が一旦は両法案の成立を阻んできたのだ。

たたかえば阻止出来る。この確信こそ大事だ。

そして、なにはさしおいても、戦争法案＝PKOは絶対に阻止するという決意こそ求められている。

自民党はなぜ焦るのか

政府自民党は、PKO法案と国際緊急援助隊派遣法を成立させるためにのみ臨時国会を召集したといって過言ではない。

なぜ！こうも焦っているのか。その理由は、十月二十三日「カンボジア和平」の最終合意文章が調印され、十一月には「国連カンボジア先遣隊」が現地入りする等の動きの中で、日本政府・支配者階級は「他国に後手をとってはならない」と大あわてなのである。

要するに、今PKO法案＝自衛隊のカンボジア派兵を逸したら他の帝国主義国からはじき飛ばされてしまいベトナムをはじめとする東南アジアの資源・石油の権益争いに介入できなくなってしまう。つまり、アジアの勢力圏化に遅れをとってしまうから焦りに焦っているのだ。

「国際貢献」はこの恐るべき侵略の野望をおおい隠すベールにすぎないのだ。

政府は「武器使用は憲法九条でいう武力行使にあたらない」などという反動的解釈を行いながら野党をも巻き込みあくまでも成立をねらっている。

しかし、同時にPKO法案に対する批判と反対の声も日増しに高まってきているのも現実である。

今なら間にあう！一人一人の戦争反対の声を！

十一・五国会闘争を突破口に全力でたたかおう。

超反動的 宮沢政権

PKO法案成立に異常な執念を燃やす宮沢内閣が十一月五日発足する。

宮沢は、この間、ことある事に「国際協力」を強調しそれを口実に、歯止めなき自衛隊の海外派兵に道を開くPKO法案の成立に遮二無二に突きすすもうとしている。

宮沢は、歴代首相の中でも最も反動的首相だ。

総裁選の政見発表段階で三候補の中で最も強力にPKO法案成立を主張していたことにもそれは言える。いわく「PKO法案をできるだけ早く成立させ国連協力への実を上げなければならない」と語りマスコミは一斉に「PKO法案成立を急げ」とあおっているのである。

われわれは、自衛隊のカンボジア出兵＝PKO法案を廃案においこむためにただちに国会行動に立ち上がろうではないか。

闘えば阻止できる

11.5 緊急国会闘争に立とう。

あと！3日!!

団結運動会を みんなの力で盛りあげよう

11月4日・千葉公園グランドへ